

## よりよい生き方を求め続ける子どもを育てる道徳科学習指導 ～道徳的価値の深まりを追求する活動構成の工夫を通して～

### 要約

21世紀は、科学技術の進歩・発展が人間の生活に多大な恩恵をもたらす一方で、それを活用する人間の側から、様々な影響も出てきている。特に、今日の社会においては、社会全体のモラル低下や家庭・地域社会の教育機能の低下など、児童の道徳性の発達を阻害している現象が多く指摘される。また、いじめの問題も深刻化し、いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換が文部科学大臣から、発信されている。(平成28年11月18日付)したがって、現代の子どもの心と体をめぐる状態は、厳しくなっている。自制心や規範意識が希薄化し、生活習慣の確立が不十分である。さらに、統計数理研究所が行った国民性調査と国際比較調査(平成25年度、7か国で実施)では、自己肯定感の低下や、友人関係の満足度の低下により、人間関係を構築する力が十分ではないとの指摘もある。そこで、子どもが直面した問題に対し、自分はどうすべきか、何ができるかを判断、行動し、自らの生き方を自分で育めるような、よりよい生き方を求め続ける子どもを育てる本研究は、意義深いと考える。そのために、次のような具体的方策のもと、研究を進めていくことにした。

- ① 道徳的価値の深まりを追求することができるように、各段階に「つかむ」「見つめる」「生かす」「あたためる」の4段階で活動構成を設定する。特に、「生かす」場面では、捉えた道徳的価値から自己の振り返りができるようにする。具体的には、資料と類似した生活場面を提示することで、児童が自己の言動を判断し、練習する場を設ける。
- ② 交流活動の工夫を取り入れ、各段階で、以下のような活動構成を交流活動で位置づける。
  - ・ 見つめる→資料から対教師(教師と子ども、役割演技)→吹き出し→ペア(子どもと子ども)→全体交流
  - ・ 生かす→資料と類似した生活場面の提示→ペア(子どもと子ども)→対教師(教師と子ども、役割演技)→全体交流
- ③ 学習の前・中・後の一連の自分の考えや思ったことが一目で分かるノートを作成・活用する。

<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業前のアンケート項目</li> <li>② 授業中の吹き出し、挿絵(自己との対話)</li> <li>③ 授業中の今までと、これからの自分(自己の振り返り)</li> <li>④ 授業一週間後の振り返り(①と同じ項目を使用)</li> </ol>	<p style="text-align: center;">(例)【アンケート項目】</p> <p>①今までに、うそをついたことがありますか。 (はい・いいえ)</p> <p>・どんなときですか。</p>
---	---

実践の結果、次のような成果(○)と課題(●)を得た。

- 対教師やペアでの交流活動や役割演技の場を設けることで、様々な考えが生まれそれを伝え合うことができた。そのため、多様な考えから学習後の自分の考えや行動を選択することができた。
- まず、場面の把握中に交流活動を仕組み、その後、資料と類似した生活場面を提示し、自己の振り返りを行うという活動構成を工夫することで、より児童が、日常生活に生かそうとする意欲が生まれた。
- 資料に加えて、道徳的価値に迫る生活場面を活用することで、子どもたちが思考し、再度、道徳的価値を確認するという意味で効果的だった。類似した場面は、子どもたちの実生活と重なり身近に感じることができた。
- 学習ノートの工夫を行ったことで、ノートですぐに自分の考えや行動を、振り返ることができたため、実践意欲につながり、自己を振り返り、見つめなおす機会が増え、日常の生活に生かすことができていた。
- 子どもたちが自分の経験と重ねて考えるためには、資料の読み取りや場面把握を丁寧に行い、さらに、切り返しの発問を加えていく必要がある。

**キーワード：**よりよい生き方を求め続ける 道徳的価値の深まり 活動構成の工夫

## 1 主題設定の理由

### (1) 社会的要請・現代教育の動向から

21世紀は、科学技術の進歩・発展が人間の生活に多大な恩恵をもたらす一方で、それを活用する人間側の問題から、様々な影響も出てきている。特に、今日の変動の激しい社会においては、社会全体のモラル低下や家庭・地域社会の教育機能の低下など、児童の道徳性の発達を阻害している現象も多く指摘される。また、いじめの問題も深刻化し、いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換が文部科学大臣から、発信されている（平成28年度、11月）。したがって、現代の子ども達の心と体をめぐる状態は、決してよい状態にあるとはいえない。自制心や規範意識が希薄化し、生活習慣の確立も不十分である。さらに、国際比較調査（平成25年度、7か国で実施）では、自己肯定感の低下や友人関係の満足度の低下により、人間関係を構築する力が十分ではないとの指摘もある。

以上を踏まえて、一人一人の人間が、社会を構成する主体であることを自覚し、高い倫理感をもって、人としての生き方や、社会の在り方について、自ら感じ、考え、他者と対話し、協働しながら、よりよい生き方を求め続ける資質・能力を備えることが必要であると考えます。

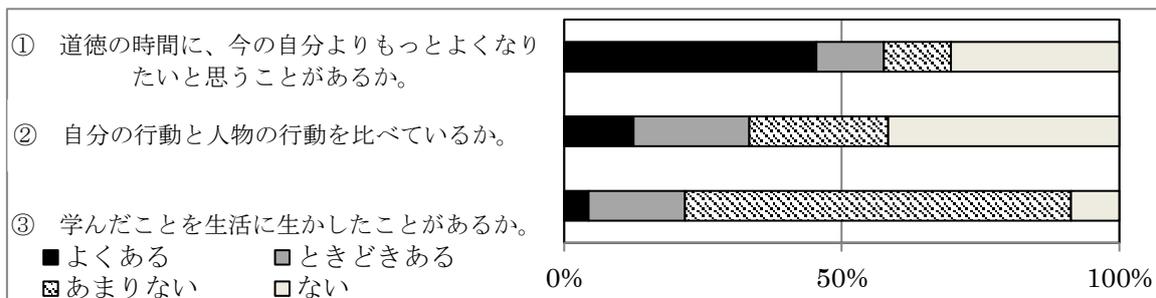
### (2) 道徳教育のねらい・「学習指導要領解説 特別の教科 道徳」から

平成27年3月に小学校学習指導要領が一部改正され、道徳の教科化が正式に告示された。「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」として新たに位置づけることで、いじめや子ども達の心の問題への対応を重視し、自立した人間として他者とともに、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳教育の充実が一層求められている。また、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童が自分自身の問題としてとらえ、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換が図られている。

そこで、子ども達が直面した問題に対し、自分はどうすべきか、何ができるかを判断、行動し、自らの生き方を育めるような、よりよい生き方を求め続ける子どもを育てる本研究は、意義深いと考え、本主題を設定した。

### (3) 児童の実態から

本学級では、実態調査の結果（図1）より、道徳の時間において、主人公の心情を共感的に捉えることはできるが、自分と比べることで「主人公はなぜ、そうできたのか。」「なぜ、自分はそう思うのか。」と、疑問をもって考える姿勢は、少ない。道徳的価値を自分との関わりで捉えられないことから、自分の行為が正しいのかどうか考えながら行動することができず、資料と実生活を結び付けて考えることができていないことが分かる（グラフ②より）。



【資料1 道徳学習についての事前アンケート】

また、「今の自分より、よくなりたい。」という思いはあっても、道徳の時間のみで、実際の生活になった場合、「あのときの場面だ、やってみよう。」と実践しようとする意欲や態度が培われていない（グラフ①、③より）。したがって、道徳の時間において、さまざまな生活場面を想起させ、自分だったらどうするか常に考え、判断する場面が求められる。さらに、学習後の振り返り

の時間を設定することで、道徳的価値を自分の問題としてとらえ直す、学習の展開や、自分の目指したい姿を明確にもてるような手だてが必要であると考ええる。

## 2 主題の意味

### (1) 主題「よりよい生き方を求め続ける子どもを育てる道徳科学習指導」とは

「よりよい生き方」とは、道徳的価値に基づいた真善に迫る自分の行いやものの見方・考え方である。道徳的価値に照らして、自分自身はどうなのかを自分に問いかけ、よさや不十分さを自覚し、自己の生き方を求めて探り、つくり出した生き方を、道徳学習において、子どもが「なぜだろう。」「自分はどうなりたいのだろう。」という問いを生みだすことが大切である。子どもは、自分の生活経験や価値観への問題意識をもとに、自分と資料を常に重ね合わせながら、自分に問い続けることで、道徳的価値の自覚を深め、「なりたい自分」をつくり出し、よりよい生き方を求めることができる。

「よりよい生き方を求め続ける子ども」とは、道徳的価値に基づいた真善に迫る自分の行いやものの見方・考え方をよりよくし続けようとする実践意欲をもった子どもである。道徳的価値とこれまでの自分の体験を重ね合わせ、自分の行いやものの見方・考え方を求め続ける。その際、一時間の道徳の学習のみで、終わらせるのではなく、一時間の学習の中で考えた道徳的価値の理解を、日常の生活の中で、自己を振り返り、自己の生き方について考えを深め続けることが大切である。

そこで、本研究では、よりよい生き方を求め続ける子どもの姿を以下の3つの姿でとらえる。

- 自分との関わりで道徳的価値を理解し、大切さを感じることができる子ども (道徳的心情)
- 実生活の場面から、自分の在り方を自らに問いかけ、よりよい生き方を思考・判断することができる子ども (道徳的判断力)
- これからの自分の生き方をつくりだし、よりよい生き方を求め続けようとする子ども (道徳的实践意欲と態度)

### (2) 副主題「道徳的価値の深まりを追求する活動構成の工夫」とは

「道徳的価値」とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。人間らしさを身につけていくための基礎・基本となる価値であり、具体例として、善悪の判断、親切、思いやり、規則の尊重などが示されている。

「道徳的価値の深まりを追求する」とは、子どもが人間としてよりよい生き方をしていく上で大切な道徳的価値を自分のこととして深く感じたり、考えたりすることである。資料を通して、主人公の気持ちを自分の経験と結びつけながら考え、「自分だったらどうするか。」と、自分の気持ちや考えと向き合うことで、道徳的価値をとらえる。そのうえで、他者の考えや、教師からの揺さぶりを通して、本来ありたい自分の姿はどうか、葛藤していく。そうすることで、自分の今までの経験や理想とする自分の姿、でも、できていない自分の姿、考えに付加・修正を行い、「こうしたら、自分のなりたい自分になれる。」「こうしたら、気持ちがいいのかもしれない。」という新たな自分の考えを見出すことができる。

「道徳的価値の深まりを追求する活動構成の工夫」とは、子どもが人間としてよりよい生き方をしていく上で大切な、道徳的価値を自分のこととして深く感じたり、考えたりするために、一時間の道徳科の学習で行う活動の流れのことである。そのために、まず児童一人一人に、これまでの経験やそのときの思いや、考え方を想起させ、一つの生活場面でも、あらゆる思いや考え方があることを理解し、道徳的価値への方向付けを行う。

次に、道徳的価値に関わる資料を基に、自分自身の問題として、自己と登場人物の気持ちを重ねて読み取り、その道徳的価値を把握させる。道徳的価値に迫る際は、アンケートの活用や対教

師の後に役割演技、その後のペア交流という活動構成を仕組み、自己の思いから道徳的価値に迫ることができるようにする。

そして、道徳的価値を理解し、自己の生き方についての考えを深め、今後の生活において、出会うであろう場面や状況に対して、適切な行為を選択し、実践することができるようにする。最後に、自己の振り返りを記録し、自分の成長を実感することで、意欲的に、実践しようとする態度を養う。そのために、道徳的価値を理解し、追い求める児童になる手立てとした学習活動を展開していく。

### 3 研究の目標

道徳的価値の深まりを追求する活動構成を工夫した実践を検証し、よりよい生き方を求め続ける子どもを育てる道徳科学習指導法を究明する。

### 4 研究の仮説

道徳科の学習において、以下のような道徳的価値の深まりを追求する活動構成の工夫を行えば、よりよい生き方を求め続ける子どもを育てることができるであろう。

- ① 道徳的価値の深まりが追求できる、道徳の時間の学習過程を、「つかむ→見つめる→生かす→あたためる」の4段階で設定する。
- ② 交流活動を対話（教師と子ども）、ペア（子どもと子ども）の2段階で仕組み、道徳的価値の深まりを追求する。
- ③ 道徳的価値が深まるように、学習ノートに評価の項目をつくり、授業後に実践し、振り返る時間を位置づける。

### 5 研究の具体的構想

#### (1) 検証の内容・方法

- ① 各段階に「つかむ」「見つめる」「生かす」「あたためる」段階を位置づけ、価値の深まりを追求する活動構成を工夫する。

段階	ねらい	活動
つかむ	○ めあてづくり（価値や資料への方向付け）	アンケート結果から、子どもの実態にあっためあてをつかむ活動。
見つめる	○ 資料を通じた道徳的価値の理解	資料から、対教師、ペア活動を取り入れ、道徳的価値理解を深める活動。
生かす	○ 捉えた道徳的価値からの自己の振り返り	資料と類似した生活場面を提示し、判断し、練習する場を設ける活動。
あたためる	○ 実践への意欲化	今までと、これからの自分を見つめ直し、学習ノートで振り返る活動。

- ② 交流活動の工夫 対教師（教師と子ども、役割演技）→ペア（子どもと子ども）

「見つめる」「生かす」段階で、以下のような交流活動を位置づける。

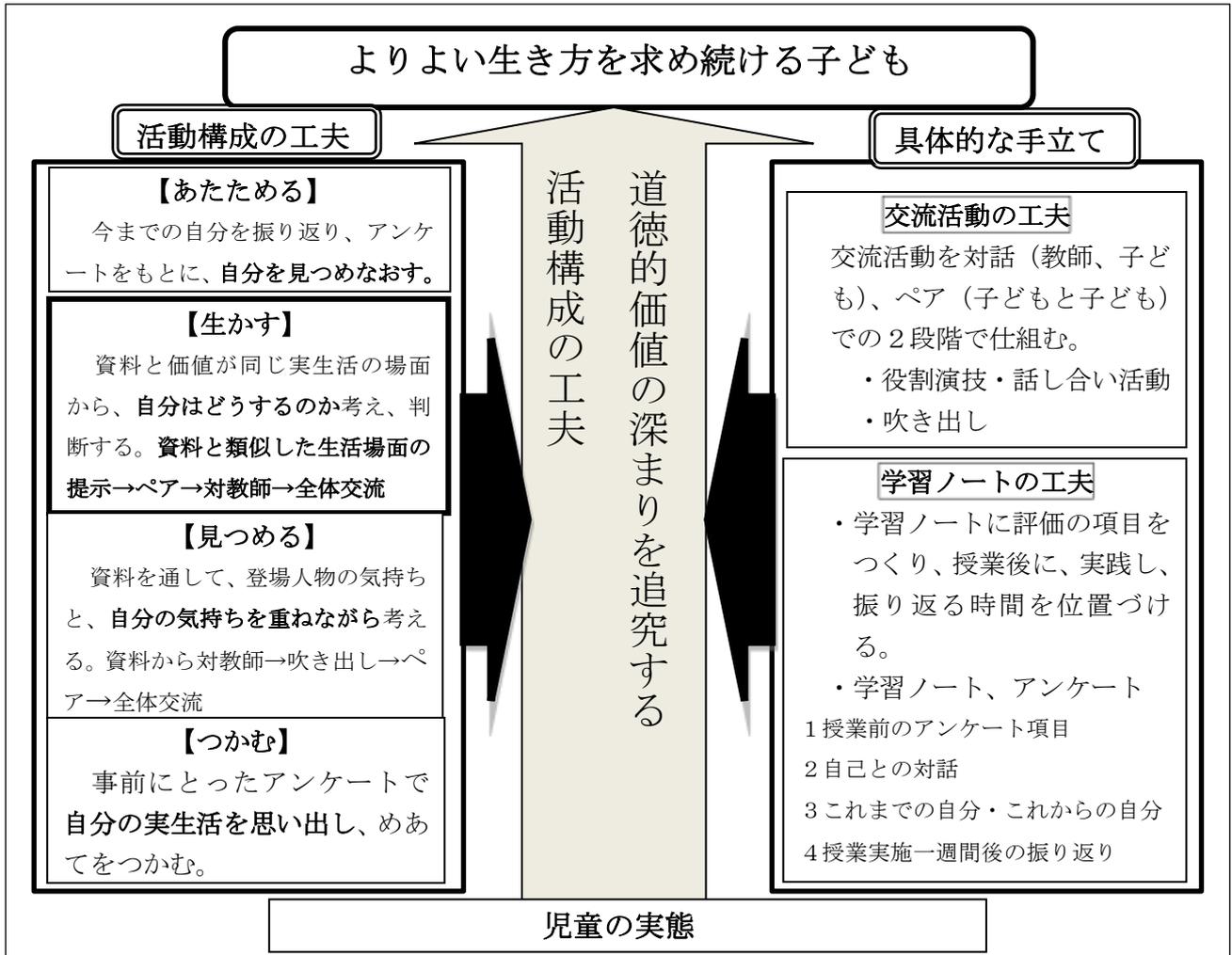
- ・ 見つめる段階→資料から対教師（教師と子ども、役割演技）→吹き出し→ペア（子どもと子ども）→全体交流
- ・ 生かす段階→資料と類似した生活場面の提示→ペア（子どもと子ども）→対教師（教師と子ども、役割演技）→全体交流

- ③ 学習ノートの工夫

学習の前・中・後の一連の自分の考えや、思ったことが一目で分かるノートを作成・活用する。

① 授業前のアンケート項目	(例)【アンケート項目】 ①今までに、うそをついたことがありますか。 (はい・いいえ) ・どんなときですか。
② 授業中の吹き出し、挿絵（自己との対話）	
③ 授業中の今までと、これからの自分（自己の振り返り）	
④ 授業一週間後の振り返り（①と同じ項目を使用）	

## 6 研究の構想図



【図 1 研究構想図】

## 7 研究の計画

月	研究内容	月	研究内容
5月	研究主題設定および構想立案	10月	実証及びデータ収集・文責
6月	アンケートの作成	11月	仮設の見直し・データ分析
7月	アンケートの分析	12月	データ分析・まとめ
8月	教材研究・指導案作成・審議	1月	研究のまとめ
9月	指導案作成・審議・実証	2月	研究報告

## 8 研究の実際

### (1) 検証1

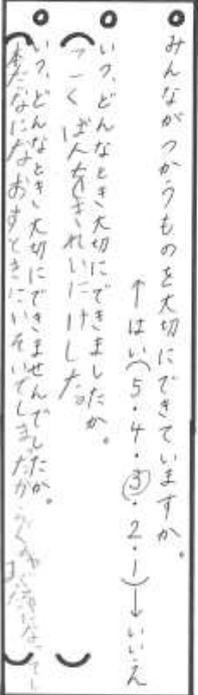
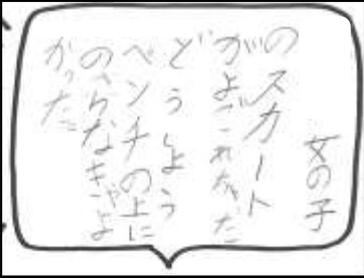
主題名 「やくそくやきまりをまもって」【C-1】

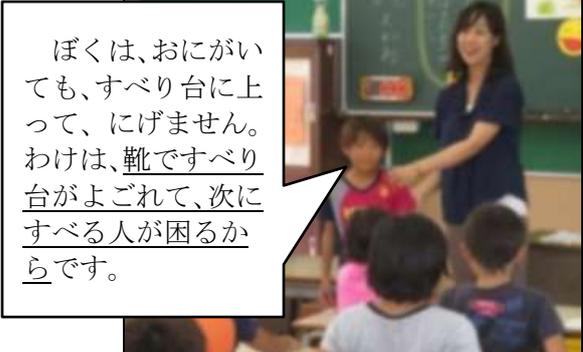
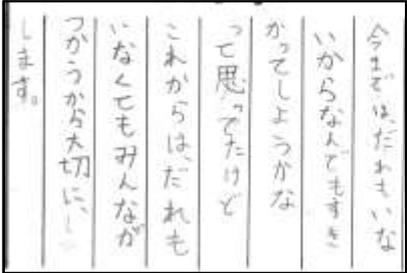
資料名 「黄色いベンチ」(「わたしたちのどうとく」)

#### ① 本時の主眼

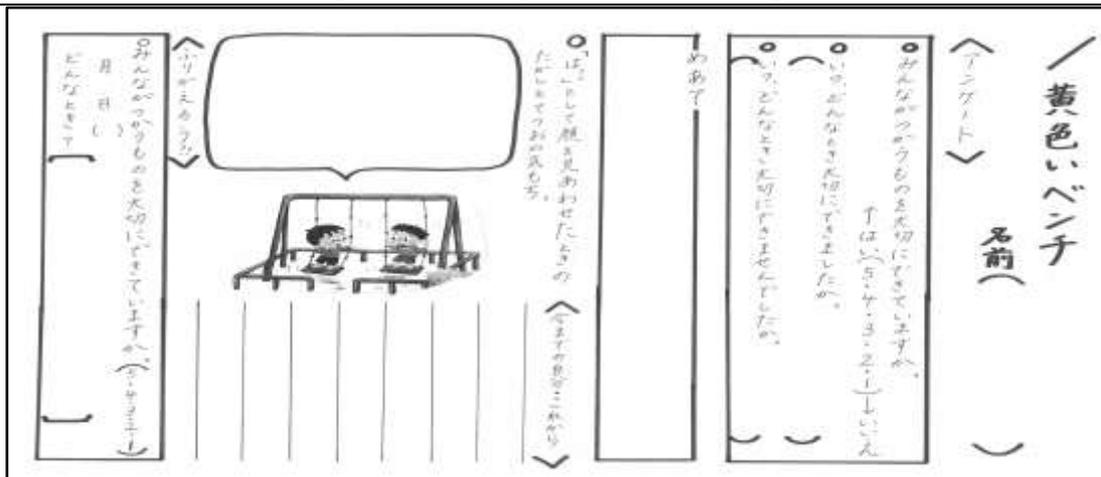
- みんなが使うものや場所を大切にすることのよさに気づき、だれもが気持ちよく生活できるようにするために、次の人のことを考えて行動しようとする態度を養う。

② 展開

段階	学習活動の実際	支援の有効性 (○成果●課題)
つかむ	<p>1 約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすることに関する体験を想起させ、学習の方向づけを行った。</p> <p><b>【構想③学習ノートの工夫・アンケートの活用】</b></p> <p>みんながつかうものを大切にすることをふくらまそう。</p>	<p>○ 事前に、「みんなが使うものを大切にできていると思うか」とそのわけをアンケートを通して考えることで、本時のめあてをつかむのに有効であった。</p> 
みつめる	<p>2 資料「黄色いベンチ」を通して、たかしとてつおの気持ちや考えについて話し合った。</p> <p>○ 資料の状況について整理。 ・場面の状況 ・登場人物 ・行為</p> <p><b>発問：「あのベンチの上から飛ばそうよ。」と言ったときの二人の気持ちは、どんな気持ちかな。</b></p> <p><b>【構想②交流活動の工夫・対教師・役割演技】</b></p>  <p><b>【写真1 紙飛行機を飛ばすA児】</b></p> <p><b>教師とA児の対話</b>  T: ベンチに乗って投げると、どんな気持ちになりましたか。  C: 楽しい! 遠くまで飛ぶから、まだしたいです!  T: いっちゃんたちは、どんな気持ちだろうか。  C: いっちゃんたちも、紙飛行機飛ばしに夢中だと思います。</p> <p><b>発問：「はっ。」として、顔を見合せたときの、二人の気持ちは、どんな気持ちかな。</b></p>  <p><b>【資料4 B児のノート】</b></p> <p><b>【構想②交流活動の工夫・ペア交流】</b></p>  <p>ぼくは、自分たちのせいで、悪かったな。と思っています。わけは、スカートが汚れて、迷惑をかけたからです。</p> <p><b>【写真2 顔を見合わせた時の場面のペア交流】</b></p> <p>自分もみんなもきもちよく</p>	<p>● 資料の提示の仕方を、資料を見せずに紙芝居形式で行ったが、場面の様子を把握するのに、不十分であった。</p> <p>○ 役割演技を通して、紙飛行機をベンチの上から飛ばすときに、泥で汚れた靴を履いたままということをおぼろげに、夢中で楽しむ気持ちに共感することができた。</p> <p><b>【共感的活用】</b></p> <p>○ ペア交流を仕組むことで、友だちの様々な考え方に、気づくことができていた。また、自分の考えをわけも入れながら話すことで、根拠を明らかにして自分の考えを整理できていた。</p> <p>● 「靴のままじゃなかったら、よかったの。」というような、切り返しの発問を、もっとおこなったほうがよかった。</p>

<p>生 か か す</p>	<p>3 今までの自分を見つめ直し、次に使う人や周りの人のことを考えることができているかについて紹介しあった。 ○ 生活場面を紹介し、どのような行動をしたらよいか判断し、練習した。</p> <p>〔生活場面〕 おにごっこをしています。あなたは、鬼です。滑り台を逆からのぼっていったら、すぐ捕まえられそうだよ。</p> <p>【構想①生かす段階における資料と類似した生活場面を判断し、練習する場面】</p>  <p>ぼくは、おにがいでも、すべり台に上って、にげません。わけは、靴ですべり台がよごれて、次にすべる人が困るからです。</p> <p>【写真3 滑り台を靴のまま上るか否かを判断しているC児】</p>	<p>○ 資料とは異なる、価値にそった生活場面を提示することで、日常の生活場面を、振り返り自分のこととして考え、判断することができていた。 【資料と類似した生活場面①より】</p> <p>教師とC児の対話</p> <p>T：滑り台からのぼって、近づくとすぐに捕まえられるよ。滑り台からのぼったら？ C：ぼくは、滑り台から登りません。 T：なんで？すぐ捕まえられるよ！鬼は、そろそろ疲れたでしょう。 C：ちゃんと、階段から登ります。靴が汚れているから。 T：靴が汚れていても、いいじゃん！早く、滑り台から登って、捕まえに来た方が楽だよ。 C：でも、次に滑り台を滑りたい人の、おしりが汚れてしまうから、ぼくは階段から捕まえに行きます。</p>
<p>あ た た め る</p>	<p>4 教師の説話をもとに自分の生活を見つめ直した。 ○ 今までの自分とこれからの自分について、感じたことや思ったことを書き、自分を見つめ直した。 【構想③学習ノートの工夫 自己の振り返り】</p>  <p>【資料5 学習後の自己の振り返りノート (A児)】</p>	<p>○ 資料から感じ取った価値を自分の経験と結び付けて、考える場を設けることで、自分の今までの言動を振り返り、よりよい自分の生き方について考えることにつながった。</p> <p>○ 学習の一週間後で、学習前のアンケートと同じ項目でアンケートを記入し振り返ることで、継続して実践していこうとする態度が見られた。</p>

【 授業一週間後の振り返り活動 】



【資料6 「黄色いベンチ」学習ノート】

(2) 検証2

主題名「正直なところを大きくするために」 正直・誠実【A- (2)】

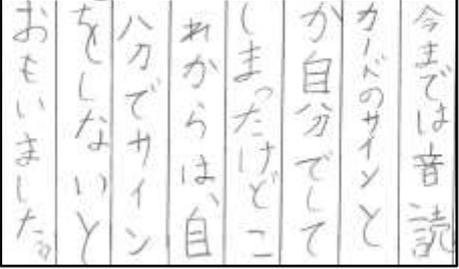
資料名 「わらったねこ」 (出典「2年生のどうとく」 文溪堂)

① 本時の主眼

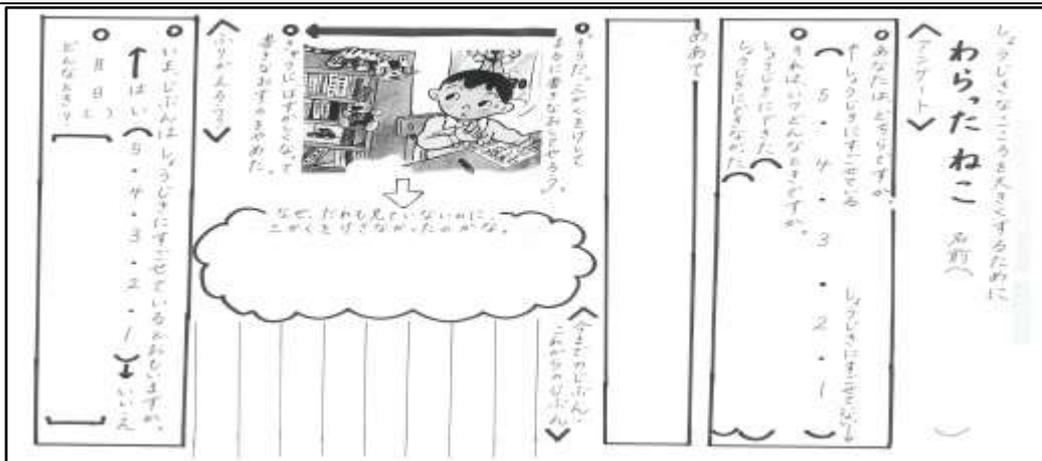
○ うそやごまかしをしないで、素直にのびのびと生活しようとする態度を養う。

② 展開

段階	学習活動の実際	支援の有効性 (○成果●課題)
つかむ	<p>1 正直に生活できているか、ごまかしをしたことがあるかのアンケートの結果を見て、本時学習のめあてをつかんだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>正直な心を大きくするためのひみつを見つけよう。</p> </div>	<p>○ 正直に言えなかったことがあるかどうか、アンケートをとり、全体の割合を伝えることで、自分だけじゃないということが分かり、様々な経験を交流することができていた。</p>
みつめる	<p>2 資料「わらったねこ」を通して、いっちゃん気持ちや考えの変容について話し合い、うそやごまかしをしないという価値を理解する。</p> <p><u>発問：「そうだ。三かくをけして、まるにかきなおしてやろう。」といったときの、いっちゃん気持ちは、どんな気持ちかな。</u></p> <p><b>【構想②交流活動の工夫・対教師・役割演技】</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>ぼくも、いやな気持ちになつたので、いっちゃんも見せたくないと思つています。</p> </div> </div> <p><b>【写真4 役割演技をしたり、自分の考えを伝えたりするD児】</b></p> <p><u>発問：なぜ、誰も見ていないのに、三角を消さなかったのか、話し合った。</u></p> <p><b>【構想②交流活動の工夫・ペア交流】</b></p> <div style="text-align: center;">  </div> <p><b>【写真5 なぜ、誰も見ていないのに三角を消さなかったのかペアで考える場面】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>うそやごまかしをしない</p> </div>	<p>○ もし、三かくのテストのまま、お母さんに見せるとどうなるか、想像することができるように、役割演技を仕組むことで、「おこられたくない。」「丸に、書きなおしたい。」という、主人公の気持ちに共感することができていた。</p> <p><b>【役割演技②より (教師とD児)】</b></p> <p>T：三角のテストをお母さんに見せるいっちゃんに、なってみてください。</p> <p>C：おかあさん、これテスト返ってきたよ。</p> <p>T：どうしたの。こんな簡単な問題。100点じゃないじゃない！もっと、がんばらないとね！</p> <p>C：…</p> <p>T：どんな気持ちだと思いますか。(フロアの子に)</p> <p>C (フロア)</p> <p>：いやだ。見せたくない。悲しい気持ちだと思う。</p> <p>○ 自分だったらどうするか、三角を「消す」「消さない」の2通りの立場に分かれ、話し合いを行うことで、立場がはっきりし、自分のこととして考えることに有効であった。</p> <p>● 自分の考えを伝える場になってしまい、さらに教師が「なぜそう思ったの。」「先生は、消したいな。」と揺さぶりをかけると、子どもたちもさらに考えが深まったのではないかと考える。</p>

<p>生かす</p>	<p>3 日常生活の場面をもとに話し合い、正直にできていない場面を見て、どうすればよいか考え、理解を深めた。</p> <p>〔生活場面①〕 音読をしていないのに、サインして!と、家の人に頼もうとしています。</p> <p>【構想①生かす段階における資料と類似した生活場面を判断し、練習する場面】</p>  <p>【写真6 サインを頼むべきではないと判断し、挙手している児童】</p> <p>〔生活場面②〕 割ってしまった花びんを、隠そうとしています。</p>	<p>○ 子どもが、一度、資料から離れ、実際の生活場面を想起しながら、自分だったらどうするかを自分から判断することで、価値が深まり、日常生活で行動に移そうとする意欲が高まったと思う。</p> <p>【役割演技】①より T (お母さん役): C (子ども) C: (音読してないけど…) 音読したからサインして! T: 私が見てなくても、ちゃんと音読してえらいわね。 C: …うん。 T: やっぱり、人が見てなくても、できる人ってかっこいいよね。 C: …ぼく、本当はやってなかったんだ。ごめんなさい。今からやろう。 T: そうだったの。でも、正直に言えたのも、すごいことだよ。今から、がんばれ!</p> <p>○ なぜ、正直に言おうとしたか、子どもとフロアの子に問い、価値を深めることができた。</p>
<p>あたためる</p>	<p>4 教師の説話を聞き、自分の生活をふり返ったり、見つめなおしたりした。</p> <p>○ 今までの自分とこれからの自分について、感じたことや思ったことを書き、自分を見つめ直す。</p> <p>【構想②学習ノートの工夫 自己の振り返り】</p>  <p>【資料7 学習後の自己の振り返りノート】</p>  <p>【写真7 振り返りを伝えているE児】</p>	<p>○ 自分の経験と結び付けて、自分を振り返ったことを、全体交流することで、周りの人の考えを、多角的・多面的にとらえることへもつながった。</p>

【授業、一週間後の振り返り】



【資料8 「わらったねこ」学習ノート】

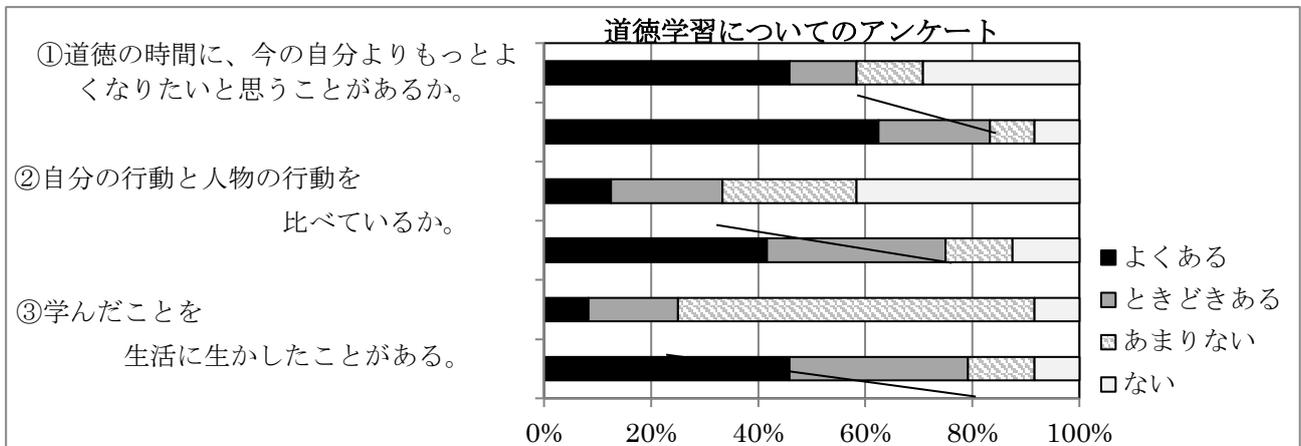
## 9 全体考察

### (1) 子どもの姿から

道徳の学習の1週間後に、再度、学習前と同じアンケートを実施したことで、道徳の学習でとらえた道徳的価値を生かして、継続してよりよい自分になりたいという意識が高くなった。規則尊重、公德心の学習後には、自分から進んで学級文庫の本を整理したり、トイレのスリッパを並べたりする姿が見られた。また、学んだ価値に迫る行動をしている友だちを見て、道徳の学習の際に活用した資料の主人公の名前を出し、「〇〇君、道徳の時間に出てきた、たかし君みたいだね。」と、友だちのよさに気づき、道徳的価値を実践していこうとする、よりよい生き方を求め続ける子どもの姿に近づいた。

### (2) アンケートの結果から

事前アンケートと事後のアンケートの比較から、「道徳の学習で、学んだことを生活に生かしたことがあるか。」という項目が一番のびていることが分かる。これまでは、その場限りの授業のみで考え、自分の生活と結びつけることができなかつた児童も、授業の、一週間後に自分を振り返るアンケートを設けることで、自分で考え、実践しようという意欲づけにつながったと考える。また、授業前のアンケートの結果と授業後のアンケートの結果が、学習ノートから一目で分かるため、児童が自分の成長を実感することができることから、生活に生かそうとする意欲や態度につながったと考える。



## 10 研究の成果と課題

### 【資料9 事前、事後アンケートの比較】

- 対教師やペアでの、交流活動、役割演技を設けることで、様々な考えが生まれ、伝え合うことができたため、多様な考え方から、自分の考えや行動を選択することができた。
- 資料と、道徳的価値に迫る生活場面を活用することで、子どもたちが思考し、再度、道徳的価値を確認する意味で効果的だった。類似した場面は、子どもの実生活と重なり身近に感じていた。
- 学習ノートの工夫を行ったことで、ノートですぐに振り返ることができるため、実践意欲につながり、自己を振り返り、見つめなおす機会が増え、日常の生活に生かすことができていた。
- まず、場面の把握中に交流活動を仕組み、その後、資料と類似した生活場面を提示し、自己の振り返りを行うという活動構成を工夫し、より児童が日常生活に生かそうとする意欲が生まれた。
- 子どもたちが自分の経験と重ねて考えるためには、資料の読み取りや場面把握を丁寧に行い、切り返しの発問を加えていく必要がある。

<参考文献>

・文部科学省 平成20年 小学校学習指導要領解説道徳編

東洋館出版社

・文部科学省 平成27年 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編

東洋館出版社

・福岡県教育委員会 平成26年9月 道徳教育実践ハンドブック（再改定版）